友愛會の脱退に就て

勞働組合同盟會

去る六月四日勞働組合同盟會代議員會に於て友愛會本部、東京鐵工組合、紡織勞働組合、東京電機及機械鐵工組合を代表して松岡駒吉氏より脱退の申出でがあつた。其の理由は『來るべき友愛會大會の準備として友愛會東京聯合會所屬の各支部組合を整理する必要があるから』と云ふのである。

勞働組合同盟會は加入組合が如何なる理由に由つて脱退するのも自由である。之を拘束しないことは各組合の意志であり、規約の示すところである。友愛會の脱退も亦當然自由である。

併しながら、日本の勞働組合運動に相當の重きをなし、其の一擧一動は日本勞働組合運動に多大の影響を及ぼす友愛會の出處進退は多數勞働者をして首肯せしむるに足るものでなくてはならぬ。『組織なき勞働者に組織を與へ、既設組合の聯合提携を促進する』を目的とした勞働組合同盟會成立の主動的地位にあつた友愛會の脱退は、此の目的を不要と認めるか、若くは勞働組合同盟會の存在が此の目的の達成に妨害をすると認めるか、其の何れかでなくてはならぬ。友愛會は之を明にするところの社會的義務を負うて居るにも拘らず、敢て之をしないのは友愛會幹部諸君の勞働組合運動に對する誠意のないことを示すものである。

一方、友愛會東京聯合會幹部の觀るところを以てすれば、勞働組合同盟會の存在は友愛會東京聯合會の存在と相容れない、少なくとも其の發展を阻止するものである、と云ふ、これが組合利己心の發露でなくて何であらう、彼等にして眞に組合の提携聯合を必要と信ずるならば、友愛會東京聯合會を解體して大合同の機運を促進すべきではないか、彼等の態度は、友愛會の傘下に一切の組合を包容して自己の指導的地位を維持せんとする職業的運動者の利己的行動である。

勞働組合主義は現在總ての組合の奉ずる主義であるが、それには二つの根本的な傾向上の差がある。即ち一は資本主義打破を目的とするものであり、他は勞資協調を目的とするものである、近來、著しく逆戻りして勞資協調的傾向の強くなつた友愛會幹部諸君は、此の根本的の差を曖昧にして、何人も否認しないところの勞働組合主義を宛も自己の專有ででもあるかのやうに標榜するのは誤魔化しの最も甚しきものと云ふべきである。

吾等は茲に斷乎として確言する。

横暴なる資本主義を打破し、全勞働階級の解放を期する吾等の勞働組合主義こそ眞の勞働組合主義であり、其の然らざるものはヨシンばそれが勞働者の團體であつても、畢竟、資本主義擁護の精神と相去る遠からざる協調組合主義なることを。敢て宣言す。

大正十年六月二十日

大日本工友會
日本交通勞働組合
日本教員組合啓明會
出版工組合大進會
日本印刷工組合信友會
新聞工組合正進會
日本鑛夫總同盟会
日本機械技工組合